

ご あ い さ つ

北海道高等学校教育研究会
会 長 林 恵 子

盛夏の候となりましたが、今年は例年とは全く違う夏を迎えております。北海道高等学校教育研究会会員の皆様は、それぞれのお立場で、未曾有の事態への対応にご尽力されていることと思います。

新型コロナウイルス感染症への対応のため、本研究会「高教研」は、60年近い歴史において、初めて研究大会（全体集会・教科別集会）を中止することになりました。今年度の研究大会のためにご準備を始めておられた各教科部会事務局の皆様、研究大会に期待して登録をいただいた会員の皆様には、誠に申し訳なく、残念な気持ちでいっぱいです。道内各地から集まって、ともに語り、意見を交わし、老練な「教師の技」を伝えたり、若手の新しい試みに刺激を受けたり、明日学校で生徒の前に立つことが楽しみになるような気持ちにさせてくれる本研究会の取組みが、当たり前にはできなかったという現実、愕然といたします。

今年度は、6月1日より会員登録を行い、7月17日集計で1,901名の皆様にご登録いただきました。新型コロナウイルス感染症の影響で、今年度の研究大会が実施できるかどうか定かでない中で、これだけの皆様にご登録いただきましたことに、心より感謝申し上げます。登録開始にあたって、仮に研究大会が実施できない場合も、登録料は返金せず、会の維持のために必要な固定費等に充当せざるを得ない旨をご説明させていただきましたが、あらためて皆様のご理解とご協力に心よりお礼申し上げます。

長い臨時休業の後、ようやく学校が再開しましたが、まだまださまざまな制約があり、当たり前の学校生活には戻れない状況です。しかし、コロナ後に回復を目指す「当たり前の学校生活」は、コロナ以前のそれとは、必然的に違って来るようです。

学校は変化の真只中にあります。臨時休業中は、各校とも生徒への学習指導には大変ご苦労され、試行錯誤しながらオンラインでの授業やホームルームに取り組みされた学校もあったと思います。コロナ禍によりGIGAスクール構想が前倒しされ、ICTを利用した教育への移行が加速しています。いつ再び臨時休校になるかもしれない中で、学びを中断させないための取組みや、「働き方改革」の流れの中で、勤務時間を管理しながら授業デザインや教材の準備を行うことなど、新しい学校教育の形を模索していくことが急務です。そして学校を取り巻く社会も、経済の情勢や、人々の価値観、ライフスタイルまでも明らかに変わりつつあります。このような時にこそ、高校教育とそれを取り巻く社会を「虫の目」と「鳥の目」で眺めることができる本会の活動を通して、皆様と一緒に考察し語り合いたいのに、と感じます。

今年度は、研究大会は中止となりますが、会員の皆様の研究活動の発表の場である研究紀要は、寄稿を受け付けます（詳細は3ページをご覧ください）。会員の皆様が互いにつながり続け、声を掛け合い学び合える関係を維持しつつ、大きな船が嵐に際してひととき帆を下ろし港で暴風雨が止むのを待つように、力を蓄え、体制を整えて、来年には、例年にも増して充実した活動が実を結ぶことを心より願い、挨拶といたします。

令和2年度 総会報告

本年度の総会・第1回研究協議会は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の対応として、書面審議の形で実施しました。審議の結果、2019（令和元）年度事業の実施報告・令和2年度事業計画、役員の変更についての事務局提案が承認されました。以下、その概要をお知らせします。

(1) 2019(令和元)年度 事業実施報告

- ア 会報 第111号発行（令和元年7月）
- イ 大会案内発行（令和元年11月）
- ウ 大会要項発行（令和2年1月研究大会時）
- エ 第57回北海道高等学校教育研究大会報告
 - ① 第1日目 全体集会（令和2年1月8日）札幌文化芸術劇場hitaru
 - ② 第2日目 教科別集会（令和2年1月9日）各会場
- オ 研究紀要 第57号発行（令和2年3月16日）
- カ 会報 第112号発行（令和2年3月16日）

(2) 令和2年度 事業計画

ア 第58回北海道高等学校教育研究大会

① 全体集会

期 日 令和3年1月6日（水）

講 演

講 師 能楽師（ワキ方、下掛宝生流）

米国 RolfInstitute 公認ロルフアー

（米国のボディワーク、ロルフイングの専門家）

安田 登 氏

② 教科別集会

期 日 令和3年1月7日（木）

イ 研究紀要 第58号発行

発 行 令和3年3月

ウ 会 報 第113号、第114号 発行

① 第113号 発行：令和2年7月 内容：令和2年度総会報告

② 第114号 発行：令和3年3月

研究大会の中止について ～新型コロナウイルス感染症に関わる事務局の対応

書面による総会・第1回研究協議会の通知を行った4月の時点では、事務局は1月の研究大会を「通常通りの開催」の方向で準備を進める方針でおりました。しかし、その後の道内や全国の感染状況は、日を迫って「通常通りの開催」が難しい情勢となってきました。オンライン開催なども検討しながら、どうにか開催できる方途を模索いたしましたが、我々を取り巻く情勢は厳しさを増す一方で、長期休業の見直しにより研究大会当日が授業日となる学校もかなりあることや、変更が予想される大学入試への対応等で勤務校を離れられない先生方が増えることなども判明しました。

さまざまな角度から検討を重ね、関係の皆様からご意見ご助言をいただきながら、誠に残念ではありますが研究大会中止の原案を作成し、総会に準じて役員・地区支部長・教科部会長に諮り、決定いたしました。以下に7月10日にHPでお知らせした概要を再掲（一部補足）します。

(1) 今年度の高教研研究大会(全体集会・教科別集会)は、オンラインも含め実施しないことといたします。

(2) 研究紀要について

研究紀要への寄稿のご希望がある場合は受け付けますが、今年度(第58号)はHP上での発表とします。印刷発行は、次年度に第58号と第59号の合冊で行うことを想定しますが、次年度の紀要編集時に原稿数等を考慮してあらためて決定します。なお、今年度執筆者募集要項は3ページ下部に掲載しました。

(3) 各地区支部・教科部会の独自の活動について

各地区支部・教科部会が独自の活動を行うことは、当該地区支部・教科部会の判断とします。ただし、本部から研究大会費(運営費)は配分しません。

(4) 会計について

①登録料の扱いについて

いろいろな不確定要素がある中で、例年と同様に登録くださいました会員の皆様に、心よりの感謝と敬意を表します。登録開始時にもお願いしましたように、徴収済みの登録料は、本会の維持に必要な経費に充当させていただき、会員への返金を行わないことをご了解ください。

研究大会を実施しなくても、通信費、レンタルサーバードメイン料金、臨時職員賃金等を含む事務局費は支出しなければなりません。登録料収入が見込まれないと、この支出のめどが全く立ちません。大変恐縮ではございますが、本会の維持のため、ご理解を賜りますようお願いいたします。

お陰様で現在のところ、会員の皆様の登録料と、hitaruの特別な対応により会場費前納金が返金されることになりましたので、それらで事務局費を支出し、さらに、各教科部会での固定的な必要経費として、例年7月に送金している登録人数に応じた研究事業費の配分もできる見通しとなりました。その上で残金が生じた場合は、次年度に繰り越し、次年度印刷発行の研究紀要の経費等に充当させていただきます。

②その他

研究大会を実施しないので、例年11月に行っている参加申し込み受付と参加料の徴収はいたしません。従って、参加申し込み人数に応じた教科部会への研究大会費(運営費)の配分も行いません。各地区支部への研究事業費の支給も、今年度は行いません。また、プログラムを発行しないので、大学・出版社等からの協賛広告料はいただきません。

(5) 例年3月に発行しています研究大会の内容を掲載した会報114号は、休刊とします。

研究紀要執筆者募集要項

教科での研究紀要は各教科部会へ、教育一般は各地区支部へ申し出て下さい。ご応募をお待ちしています。なお執筆者は本研究会の会員に限ります。

① 原稿募集の種類

(ア) 教科は、1教科につき 10ページ以内〔横書き 横24文字 2段組み 1,000行〕

(原稿の集約・審査は各教科部会長の担当です)

(イ) 教育一般は、1編につき 10ページ以内〔横書き 横24文字 2段組み 1,000行〕

(原稿の集約・審査は各地区支部長の担当です)

② 日 程

執筆申込締切日 教科部会・地区支部まで 2020年8月26日(水)

執筆者本部決定 9月11日(金) 原稿提出締切 11月6日(金)

全体講演の歩み
～ 第30回大会以降 ～

回	開催年度	講師氏名	演題
30	平 4	伊東 光晴 (放送大学教授 京都大学名誉教授) 古葉 竹識 (野球評論家)	技術革新の現在と社会の変容 耐えて勝つ
31	平 5	C.W.ニコル (作家) 若井 邦夫 (北海道大学教育学部教授)	自然と人間 子どもが発達するとき -必要とあそびのあいだ-
32	平 6	中村雄二郎 (明治大学法学部教授) 杉岡 昭子 (札幌国際プラザ専務理事)	共通感覚と自己表現 「故郷忘れがたく候」の旅
33	平 7	河合 雅雄 (京都大学名誉教授/日本福祉大学教授) 山中 燦子 (北海学園大学人文学部教授)	人間 -進化の道からずれた動物 世界の中の日本と日本人
34	平 8	佐原 真 (国立歴史民俗博物館副館長) 横湯 園子 (北海道大学教育学部教授)	大むかしと現代 子どもを観る目 -教育臨床心理の立場から-
35	平 9	浅井 信雄 (神戸市外国語大学教授) 中野 武房 (北海学園北見大学教授)	国際化と私たちの暮らし カウンセリングを体験してみませんか
36	平 10	梶田 叡一 (ノートルダム女子大学学長) シンポジウム	変革期の高校教育を考える 「今こどもの心は」 -問題行動の背景を探る-
37	平 11	養老 孟司 (北里大学教授)	からだと脳
38	平 12	河合 隼雄 (京都大学名誉教授)	青春の夢
39	平 13	阿部 謹也 (共立女子大学学長)	日本社会の構造と教育
40	平 14	五木 寛之 (作家)	日本人のこころ
41	平 15	毛利 衛 (宇宙飛行士/日本科学未来館館長)	宇宙の視点からの教育
42	平 16	寺島 実郎 (三井物産戦略研究所所長 /日本総合研究所所長)	世界潮流と日本および北海道の進路
43	平 17	吉村 作治 (早稲田大学国際教養学部教授)	夢の実現の仕方
44	平 18	桜井 進 (河合塾、早稲田塾、数学講師 /sakurAi Science Factory 主催)	サウンド オブ サイエンス ジョン・ネイピア ～対数誕生物語
45	平 19	金子 勝 (慶應義塾大学経済学部教授)	ニュースの嘘と教育
46	平 20	阿刀田 高 (作家) 阿刀田慶子 (朗読家)	アイデアの発見
47	平 21	福岡 伸一 (青山学院大学理工学部化学・生命科学科教授)	科学のおもしろさをどう伝えるか
48	平 22	見田 宗介 (東京大学名誉教授)	現代社会はどこに向かうか
49	平 23	内田 樹 (神戸女学院大学名誉教授)	転換期の教育 -グローバルイズムに抗して
50	平 24	川口淳一郎 (宇宙航空研究開発機構教授)	「はやぶさ」が挑んだ人類初の往復の宇宙飛行、 その7年間の歩み
51	平 25	古賀 稔彦 (柔道家、古賀塾塾長、医学博士)	夢の実現 ～挑戦することの大切さ
52	平 26	大棟 耕介 (NPO 法人 日本ホスピタル・クラウン協会理事 長 愛知教育大学非常勤講師)	心を開き、活気を生み出す『笑い』の力 ～ホスピタル・クラウンの現場から～
53	平 27	溝上 慎一 (京都大学高等教育研究推進センター教授 大学院教育学研究会(高等教育開発論講座)兼任)	社会に繋がる学習 -アクティブラーニングとトランジション-
54	平 28	中島 岳志 (東京工業大学リベラルアーツ研究教育院教授)	自主規制はいかにして起きるのか
55	平 29	児美川孝一郎 (法政大学キャリアデザイン学部教授)	地域の未来をつくるキャリア教育の創造 - 新学習指導要領が示唆すること -
56	平 30	新井 紀子 (国立情報学研究所社会共有知研究センター センター長・教授 一般社団法人教育のための科学研究所代表理事・所長)	AI時代の教育～社会はどこへ向かうか
57	令 元	齊藤 誠一 (北海道大学北極域研究センター 研究推進支援教授)	これからの北極域研究 -気候変動とSDGsの視点から-

令和2年度 北海道高等学校教育研究会 役員・地区支部長・教科部会長・本部事務局

〔役員〕

会 長	林 恵子	(札幌旭丘)			
副 会 長	高橋 豪	(札幌琴似工業)			
	西岡 憲廣	(札幌山の手)			
	瀧澤 共喜	(札幌東)			
	中村 正人	(札幌平岸)			
監 事	阿部 孝則	(札幌藻岩)			
	池田 隆	(札幌東商業)			
顧 問	尾崎 信夫	染谷 昌志	綾井 健二	武田 泰明	
	田村 勸	島 隆	青塚 健一	金間 正克	
	宮浦 俊明	守屋 開	佐々木高至	石黒 清裕	

〔地区支部長〕

〔石狩〕	阿部 穰	(国際情報)
〔道南〕	古室 信行	(函館商業)
〔後志〕	西村 博幸	(真狩)
〔空知〕	鎌田 一宏	(岩見沢農業)
〔道北〕	美土路 建	(旭川西)
〔オホーツク〕	渡辺 淳一	(網走南ヶ丘)
〔釧根〕	橋本 功	(阿寒)
〔十勝〕	杉田 良二	(帯広緑陽)
〔日胆〕	柴田 亨	(伊達)

〔教科部会長〕

〔国語〕	柴田 健一	(札幌南陵)
〔地歴・公民〕	渋川 誠人	(札幌北陵)
〔数学〕	菅原 和良	(札幌東陵)
〔理科〕	田邊 裕二	(苫小牧西)
〔保健体育〕	金田 英司	(北広島西)
〔養護〕	渡邊祐美子	(千歳北陽)
〔芸術〕	渡部 秀治	(天塩)
〔英語〕	渡辺 文貴	(千歳)
〔家庭〕	井上 明子	(札幌厚別)
〔農業〕	近江 勉	(倶知安農業)
〔工業〕	高橋 豪	(札幌琴似工業)
〔商業〕	鈴木 恵一	(札幌啓北商業)
〔水産〕	木村 司	(小樽水産)
〔情報〕	佐藤 健	(えりも)

〔事務局〕

事務局 長	矢田 春義	(札幌旭丘)		
事務局 次長	信田 篤	(札幌旭丘)	後藤 邦昭	(札幌旭丘)
	松林 憲人	(札幌旭丘)	細田亜紀子	(札幌旭丘)

〔地区支部〕

地区支部	事務局校	事務担当者	〒	住所	Tel	Fax
石狩	国際情報	濱下 昌也	001-0930	札幌市北区新川717番1	011-765-2021	011-765-2022
道南	函館商業	柴尾 尚文	041-0812	函館市昭和1丁目17番1号	0138-41-4248	0138-41-4250
後志	真狩	安彦 勇二	048-1611	虻田郡真狩村字光6番地	0136-45-2357	0136-45-3514
空知	岩見沢農業	佐々木真一	068-0818	岩見沢市並木町1番地5	0126-22-0130	0126-22-5362
道北	旭川西	後藤 禎和	070-0815	旭川市川端町5条9丁目1番8号	0166-52-1215	0166-52-2974
ホ-ツ	網走南ヶ丘	原田 壽之	093-0031	網走市台町2丁目13番1号	0152-43-2353	0152-43-4451
釧根	阿寒	金澤 豪	085-0213	釧路市阿寒町仲町2丁目7番1号	0154-66-3333	0154-66-3303
十勝	帯広緑陽	渡辺 幹夫	080-0861	帯広市南の森東3丁目1-1	0155-48-6605	0155-48-6603
日胆	伊達	千葉 哲也	052-0011	伊達市竹原町44番地	0142-23-2525	0142-23-2526

※教頭が担当

教科部会	事務局校	事務担当者	〒	住所	Tel	Fax
国語	北広島西	榊 優美	061-1105	北広島市西の里東3丁目3-3	011-375-2771	011-375-2661
地歴・公民	札幌北陵	小原 茂	002-0857	札幌市北区屯田7条8丁目5-1	011-772-3051	011-772-3052
数学	札幌東陵	川嶋 哲典	007-8585	札幌市東区東苗穂10条1丁目2-21	011-791-5055	011-791-5095
理科	札幌西	本間 順	064-8624	札幌市中央区宮の森4条8丁目1番	011-611-4401	011-611-4403
保健体育	北広島西	中村 寛成	061-1105	北広島市西の里東3丁目3-3	011-375-2771	011-375-2661
養護	札幌北	滝川 智子	001-0025	札幌市北区北25条西11丁目	011-736-3191	011-736-3193
芸術	札幌東陵	星野 壮志	007-8585	札幌市東区東苗穂10条1丁目2-21	011-791-5055	011-791-5095
英語	千歳	中川 修司	066-8501	千歳市北栄1丁目4-1	0123-23-9145	0123-23-2742
家庭	札幌厚別	坂口真奈美	004-0069	札幌市厚別区厚別町山本750-15	011-892-7661	011-892-7799
農業	倶知安農業	菅原 光男	044-0083	虻田郡倶知安町字旭15	0136-22-1148	0136-22-2252
工業	札幌琴似工業	佐原 将彦	063-0833	札幌市西区発寒13条11丁目3-1	011-661-3251	011-661-3252
商業	札幌啓北商業	堀野 智宏	005-0841	札幌市南区石山1条2丁目15-1	011-591-2021	011-591-2023
水産	小樽水産	岡崎 玲	047-0001	小樽市若竹町9-1	0134-23-0670	0134-23-4553
情報	札幌稲雲	鶴間 伸一	006-0026	札幌市手稲区手稲本町6条4丁目1番1号	011-684-0034	011-684-0040

[部会長校]国語 (札幌南陵)、理科 (苫小牧西)、養護 (千歳北陽)、芸術 (天塩)、情報 (えりも)

令和2年度 会員登録状況

(令和2年7月17日 現在)

	国語	地歴 公民	数学	理科	保健 体育	養護	芸術	英語	家庭	農業	工業	商業	水産	情報	合計	前年 合計
石狩	97	107	116	104	81	26	44	132	33	1	12	51	1	24	829	962
道南	14	11	9	13	10	4	4	18	4	7	5	11	39	1	150	151
後志	4	6	7	8	3	1	3	13	3	19	5	7	31	1	111	127
空知	11	10	13	6	11	2	6	7	6	10	3	14	0	2	101	130
道北	17	30	18	20	15	7	7	21	5	28	14	18	0	2	202	240
オホーツク	13	19	17	21	5	1	2	12	5	10	3	9	0	2	119	127
釧根	17	23	17	19	11	1	4	14	5	8	5	13	12	2	151	158
十勝	13	6	11	5	11	1	4	7	0	14	7	5	0	2	86	106
日胆	13	20	11	22	13	5	7	31	5	6	8	10	0	1	152	148
合計	199	232	219	218	160	48	81	255	66	103	62	138	83	37	今年度	1,901
前年合計	221	249	257	248	174	67	89	283	80	128	64	149	85	55	前年度	2,149

◎会員数の推移

年度	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
会員数	3,362	3,232	3,142	3,063	3,049	2,785	2,721	2,592	2,473	2,369	2,283	2,256	2,196	2,197	2,205	2,149

事務局より

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、長い長い臨時休校となってしまいました。この間に世の中に認知されたのが「アマビエ」でした。江戸時代後期に肥後国の海から現れた「アマビエ」は『六年間は諸国で豊作がつづく。しかし同時に疫病が流行するから、私の姿を描き写した絵を人々に早々に見せよ。』と予言したそうです。この「アマビエ」を水木しげるさんは、三十六年も前に既に描かれています。

その水木さんが描いた「アマビエ」をじっと見ていると、その背後に人々の疫病退散を願う一念が物凄いパワーとなって感じられます。この水木さんの「アマビエ」の力で、無事に来年度の高教研が開催されることを祈っております。

発行 令和2年7月
 北海道高等学校教育研究会本部事務局
 〒064-8535
 札幌市中央区旭ヶ丘6丁目5番18号
 市立札幌旭丘高等学校内
 TEL 011-513-2238 FAX 011-513-2244
 Eメールアドレス d-kokyoken@sapporo-c.ed.jp